

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-134	16-311	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
Processing of Alcohol-Related Health Threat in At-Risk Drinkers: An Online Study of Gender-Related Self-Affirmation Effects. リスクのある飲酒者におけるアルコール関連の健康への脅威に対する処置:性差に関連する自己肯定効果のオンライン研究。		
執筆者		
Kamboj SK, Place H, Barton JA, Linke S, Curran HV, Harris PR		
掲載誌		
Alcohol Alcohol.2016 Nov;51(6):756-762.		
キーワード		PMID:
自己肯定、オンライン手法、リスクある飲酒者、情報提供		26993737
要旨		
<p>目的:</p> <p>過剰なアルコール消費に関連した脅かすような健康情報へ応答する防御性は、適当な行動変化を妨げる。一方、自己肯定は脅かすような情報の認知・感情処理を改善する可能性があり、自己によるコントロールが成功することに寄与する。</p> <p>方法</p> <p>オンラインの自己肯定手法の効果をリスクのある飲酒習慣のある大学生で調べた。参加者はアルコール関連の脅かすような情報のプレゼンテーションの前に、自己確認(個人的に関連した価値について書く)または管理課題(別の人への価値について書く)を無作為に割付けた。作業の後、向社会的感情(例えば『愛』)の評価が処置検査として用いられた。アルコール摂取と癌の関連に関する一般的なおよび個人的な情報が提示された。そして、感じられた脅威、メッセージ回避とメッセージからの逸脱が評価された。ページ滞留時間は、メッセージに対応する間接的なインデックスとして用いた。アルコール消費量と飲酒を少なくする意図は、最初のオンライン・セッションの間に、そして、1週間および1ヵ月後の追跡調査で評価された。</p> <p>結果</p> <p>自己肯定が作業の直後に向社会的感情の向上につながったが、自己肯定群で行動に対する効果はみられなかった。</p> <p>男性が自己肯定の直後に低下した意図を示したように、意図に対する効果は性によって違っていたが、それは1週間の追跡調査では増加した。</p> <p>自己肯定群でアルコール消費を減らす女性群での意図は時間とともに減少した。</p> <p>メッセージからの逸脱とメッセージ受理の指標に対する傾向レベルの効果は、男性群だけで予測された方向にあった。</p> <p>結論</p> <p>オンライン環境にあるリスクのある飲酒者で自己肯定手法を施行することは可能である。しかしながら、この集団によるインターネットベースの処置の使用は、研究室ベースの実験と比較して実質的に弱められる(性依存的な)効果を引き起こす可能性がある。</p>		